

講義名	外国から来た子どもを家庭と地域で支える	講座担当者	内海由美子(山形大学)
単位数	6	講義形式	講義、ワークショップ
実施日時	2019年11月2日(土) 10:30~16:10	実施会場	(公財)福島県国際交流協会 ZOOMによる同時受講可
講座の目標及び特に目指す受講者の知識・技能・態度			
<p>講座の目標 支援環境について考える。保護者の抱える困難について考える。</p> <p>特に目指す受講者の知識・技能・態度  知識 ③ 子どもの言語学習支援の方法や、教科等の学習と日本語指導を関連付けることの重要性について理解している。  技能 ④ 自身の支援を振り返り、改善しようと試みる。  態度 ② 支援教室での様子に加え、学校・地域・家庭での日本語使用などにも目を向け、ことばの習得状況を捉えようとする。  ③ 複数の言語・文化をもつ家族の多様な事情を理解し、子どもに寄り添って支援をしようとする。  ※②③④は、本研修で設定した養成を目指す「資質・能力」の番号である。「<a href="#">自己評価シート</a>」参照</p>			
講座内容			
<p>1 散在地域について  (1)日本語指導が必要な児童生徒の状況について  (2)散在地域の特徴</p> <p>2 散在地域の支援体制(学校内の態勢)  (1)特別の教育課程の指導者について  (2)外部支援者の役割、指導補助者の役割  (3)学校内の支援態勢「サポートチーム」について  複数の大人が子どもを見ることの大切さ／大人のネットワーク＝子どものセーフティネット  (4)ワークショップ  ①自分が関わっている学校内の支援態勢を図にまとめる  ②学校における支援で自分が担っている役割を書き込む  ③学校での支援で使えるリソースを挙げる  ④学校における支援の課題を挙げる  (5)散在地域の支援態勢(山形市の場合)  子ども最優先の視点／家庭支援の視点</p> <p>3 外国出身保護者の抱える困難  (1)ワークショップ  「子どもがいじめられているかも知れない場合、保護者から学校へどのように働きかけるか」  日本人保護者のビリーフ／外国人保護者は日本人と同じビリーフを持つのか？  (2)外国出身保護者の抱える困難  外国出身であることの「怖さ」／日本語の読み書きに対する「怖さ」／子育てに対する自信のなさ  (3)外国人保護者に言ってはいけない一言</p> <p>4 振り返り</p>			
成績評価方法			
<p>講義への出席後または録画による講義の視聴後、課題を提出する。  他の講義と併せて、80%の出席と課題の達成度60%で修了証を授与する。  〔課題〕  「散在地域で、今できること、近い将来できること、できそうなことは何か」をA4 1ページにまとめる。</p>			
参考書			
<p>○ 外国出身保護者のための支援サイト「幼稚園・保育園の連絡帳を書こう！」<a href="https://renrakucho.net/">https://renrakucho.net/</a>  ○ 内海由美子・澤恩嬉(2013)「外国人の母親に対する読み書き能力支援としてのエンパワーメント」『日本語教育 155号』</p>			